

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2017年2月

ISO/TC61（プラスチック）/SC12（熱硬化性材料）、分野の最近の動向

1. ISO/TC61/SC12の構成

ISO/TC61/SC12は、熱硬化性材料関係の規格の制定・改正等を担当する。現在、87の規格を有する。

幹事国は、日本で、日本プラスチック工業連盟が国際幹事を2004年より受諾している。議長は、日本（2016年より山崎聡氏（三井化学株式会社））が受諾している。2015年のメンバーは、Pメンバー（投票権有す）が、18カ国、またOメンバー（オブザーバ）は、11カ国であった。

表1のように三つのWG（作業グループ）が活動している。

WGのコーディネータは、WG2は正岡和隆氏、WG5はエポキシ樹脂技術協会の事務局長、高橋泰氏、WG6はDr.Thomas. Conti（ANSI；USA）が務めている。

表1 TC61/SC12のWG

WG	コーディネータ	タイトル
WG 2	日本	フェノール樹脂
WG 5	日本	エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂
WG 6	USA	ウレタン原料

第65回ISO/TC61年次国際会議は、9月19日からドイツのベルリンで開催され、同会議で審議された国際規格の制定・改正状況をWG（作業グループ）別に、記述する（規格の名称は簡略して示す）。

2. ISO/TC61/SC12の審議事項

(1) WG2(フェノール樹脂)

代理コーディネータ：栢

フェノール樹脂について、インドから新規プロジェクトの提案が2件実施された。

いずれも2017年から新規開発を予定している。耐候性（SC6）及び燃焼特性（SC4）の規格であるので、TC61内でコワークすることが推奨された。

WG1の定期見直し規格は、2017年から、本WGで審議を予定することが承認された。

(2) WG5(エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂)

コーディネータ：高橋泰氏

a) 日本提案の「FT-IRによるエポキシ樹脂の架橋度の測定方法」は、CD投票の結果、次段階（DIS）に進むことが承認された。

国際的ラットロビン試験については、インド、イタリア、UKから使用可能であるとの回答連絡があった。

b) 2015年度Systematic Reviewで5規格が見直し投票され、確認された。

(3) WG6 (ポリウレタン原料)

コンビナー : Dr.T. Conti

a) ISO 15064(トルエンジイソシアネート異性体率測定)

CD 投票の結果、タイトルに (TDI) を追記し、次段階 (DIS) に進むことが承認された。

b) 日本から提案の、「ポリマーポリオール中のアクリルトリルモノマー及びスチレンモノマー残留量の測定方法」について WD 案の審議が行なわれた。

WD の内容を修正し、2017 年に NWIP 投票を予定する。

c) 定期見直し 4 件については、投票結果は確認であった。しかしながら、Editorial な軽微な修正を必要とする ISO 14900 並びに ISO 26603 については、FDIS 投票から改正を予定することが承認された。

以上